

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第9回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的な審議（公開）

（1）今後の活動について

3 開催日時

令和8年1月19日（月）午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

高田城址公園オーレンプラザ 研修室・会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

・ 委 員：澁市会長、栗田副会長、廣川副会長

飯塚委員、北川委員、佐藤委員、杉本委員、富田委員、町委員、
宮崎委員、村田委員、茂原委員、山岸委員、山崎委員、吉田委員、
渡部委員（欠席4人）

・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【石黒係長】

・ 上原委員、柴田委員、下村委員、淀野委員を除く16人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【澁市会長】

・ 会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：栗田副会長、町委員に依頼

— 次第2 自主的審議事項（1）今後の活動について —

【澁市会長】

次第2 自主的審議事項（1）今後の活動についてに入る。

本日は、「高田祇園祭が継続・発展するための方策」と「大雪に対する準備の再確認・点検」について話し合いたい。

最初に高田祇園祭について、前回は話し合いの前に祇園祭について勉強会を行った。内容は資料No.1のとおりである。ここで確認だが、祇園祭については市に対して意見書を提出するものではない。また、関係町内会の皆さんが話し合いを進める中で、地域協議会に対して特に協力を求めてもいないが、勉強会等を通じて高田祇園祭の実施に当たっては財政的な問題などいろいろな困難があることを理解した。個人的には、400年も続いている無形民俗文化財の高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行を継続、発展させるのは私たちの重要な使命だと思っているので、地域協議会はどのようなことができるか考えていきたいと思っている。

そこで、参考意見として関係町内会による話し合いの音頭をとる富田委員とメンバーの杉本委員から協議会の関わり方などについて率直な意見を求めたいと思う。富田委員には、差し支えなければ話し合いの状況や見通しもあわせてお話しいただきたい。

【富田委員】

今ほど会長から話があったように、高田祇園祭は400年も続いているということで、今後も継続するためには金銭的に問題があるということを前に話したと思う。昨年の11月18日に37の町内会長が集まってワークショップを行った。どのような内容かというと、みこし渡御の高齢化が進むとともに、人口が減少して台車を引けない、昔は担いでいたが今はほとんど台車である。数町内会は担いでいるが、ほとんど台車でやっていて、台車も引けないような町内会があることが一つの問題点である。

二つ目は、御旅所の組立・解体における改善策。御旅所の組立・解体の費用は、

コロナ前までは5、60万円で行われていた。ところが、コロナ明けは360万円かかった。この前は200万円、今回は80万円。作業が2日間必要だったり、いろいろ費用がかかるということで、150万円くらいかかるのではないかと思っている。ほかの業者からも相見積もりをもらっている。御旅所の組立・解体は雪堀りと同じで何も残らない。何かいい方法がないか検討する。

三つ目は、宮入りの担ぎ手、高齢化によって御旅所にみこしを入れるのが大変だということがあって、この三つについて現状と改善策を話し合った。地域協議会がどれくらい関わられるかというのは、皆さんにも考えてほしい。みこし渡御の人手不足は、高校生や中学生に担いでもらってはどうかという提案があった。怪我したらどうするかとかいろいろな問題があるが、これは今、各町内が担当してやっている。我々、宮元は責任をとれない。町内のほうが責任を持つということでやっている。

みこし渡御の人手不足については、高田祇園祭の歴史教育を各町内で実践し、参加するよう働きかけてはどうか。高田祇園祭というのは歴史があるということを皆さんに知ってもらって、住民自らで立ち上がるというようなことをやっていこうかということで、それがすぐ解決にはつながらないが、そういうことを考えてはどうかという意見が出た。

御旅所の組立・解体は、クラウドファンディングをやるとか、国から補助金が出ないか調べたらどうかとか、御旅所の組立・解体をしなくてよいように空き家を利用したらどうかといった意見が出た。

宮入の担ぎ手は、役員で調査したら組織はきちりある。上越まつりを開催するのに三つの委員会があり、高田奉賛会、なおえつ祇園協議会、謙信公祭である。我々は高田奉賛会の下部の高田祭典委員会となる。その下に、催し物委員会ということで、宮入の前後に団子をまくとか、そういう催し物は催し物委員会で、そのほか総務委員会があってそれは警察の関係というようにテリトリーはしっかりしている。それは私も知らなかった。後で聞いたら、その組織をきちり説明してやればうまくいくのではないかという話が出ている。

みこし渡御の人手不足、御旅所の組立・解体、宮入の担ぎ手の三つについて議論して、4月に町内会長を集めて今回の結果を報告して皆さんから意見を出してもら

って、6月の総会、7月に実施という計画でやっている。

【澁市会長】

続いて、メンバーとしての立場から杉本委員に協議会の関わり方について意見や助言をお願いしたい。

【杉本委員】

高田祇園祭祭典委員会参加の町内が33で、これはみこしが渡御する町内だけの会である。高田祇園祭というのは、みこしの通らないところも参加している。それが57町内会で、高田祇園祭奉賛会というふうになっている。奉賛会は昭和の合併前の高田市の町内会が全部加わった。奉賛会がお金を集める時には、皆さんの町内からも拠出されている。一人当たりの単価は少ないが出している。その傘下に今言われた祭典委員会、催し物委員会、総務委員会があって、その祭典委員会はみこしの運行の管理をやるのが主な仕事で、宮入りとかいろいろなことをやる。

澁市会長が言われたように地域協議会で何ができるのかというと、私の考えでは何もできないと思っている。これは、祭典委員会のほうが主体的になってどうするかを考えていくべきかと思っている。担ぎ手は、聞いてみるとどこの町内も大変そうで、去年の例でいうといくつかの町内で担いでいるが、実際に担いだのは3町内しかない。私の町内会は無理して担いでいる。無理して担いでいるというか、稲田にみこしを引き渡す町内なので、最後まで担いで締めなくてはいけないだろうという、ある意味、意地みたいなものがある。それで担いでいる。黙っていても皆さんが出てくるわけではなくて、子どもの頃から「うちの町内は締めの町内なんだよ」という話を頻繁にされて、ある意味染みついていて担ぎに出てきてくれるのだと思う。

宮入りの話で言うと、勉強会の中でも話が出てきたが、祇園祭というのはいろいろな所で行われていて、どこも人手不足みたいな問題があり人を募集してみこしを担いだりする所もある。だから、将来的にどうしても担ぐ人がいないということになったら、それも一つの手かなと思う。33町内全部が募集して担ぐというのは無理な話なので、人を集めて担ぐ場所を限定してやるようなことを考えていかないと、将来的には難しい部分が出てくるのではないかと思っている。そんな話を祭典委員会なりどこかでしようと思っている。確かに伝統のある行事だが、伝統、伝統と言っても仕方がない。人口そのものが減っているわけだから、そういう中でやれる方法、そうい

う状況の中で何ができるのかを考える必要があると思う。

みこしを担ぎたい人は大勢いる。祇園祭でいうと、みこし連合というのがあって、ここに声を掛けると参加してくれるが、どこで参加しているかという、宮入と同じ時間に高田駅前から本町まで、祇園祭のみこしではないみこしを担いでいるので協力をお願いするとか、稲田でもみこしを担いでいるが、稲田よりもみこし連合の人数のほうがはるかに多い。そういう状況である。実際に自分の町内の人たちと町内の企業などから協力を得て担ぐのは、残念ながら今のところ三つとか四つとか、年々減ってきているような状況である。先ほども言ったように、地域協議会としてはできることはないと思う。

【澁市会長】

ただ今の意見を踏まえたうえで、地域協議会としての関わり方、さらには、地域協議会の話し合いのテーマとするかどうか、皆さんの意見を求めたい。

【北川委員】

みこしを担ぐのにどれくらいの人数が必要か。

【杉本委員】

うちの町内で一番少ない人数で担いだのは、去年が25人である。25人だと全部は担げない。上り坂になっている所があるので大変である。

【澁市会長】

今のみこしは20年くらい前に作り変えた。それまでのみこしはものすごく重かった。

【杉本委員】

昔のみこしは30人を超えないとダメだった。

【澁市会長】

今は最低25人。できれば40人くらい必要だろう。

【杉本委員】

交代要員がいないと長い距離になると無理である。うちの町内は小さくて距離が短いからなんとかできるが、長い距離だと交代する人がいないと難しい。

【澁市会長】

それでも意地で担いでいる。

【富田委員】

高田の場合は、2キロくらいある。直江津は1キロ弱しかない。

【吉田委員】

私の町内の場合、直線で600メートルだが団地の中を回るので1キロ以上あると思う。祭典部長をやっていたが25人では無理である。交代も必要だし、町内会長の下に区長がいて、その下の組長が各班から何名出せと動員をかけている。最近、台車に乗せて引っ張るのが主になってきているので、動員があまりなくなったように思う。単純計算しても1キロ以上あったと思うので、5、60人は必要だった。奉賛会で集めたお金で御旅所の費用を賄ってはいないと思うが、足りない分はどうしているのか。

【富田委員】

奉賛会と町内会費からで今まではなんとかできた。最近、ずっと値上がりしていて、今年もまた上がりそうである。

【澁市会長】

高田祇園祭、表祇園、裏祇園に参加しているのは33町内会で、57町内会が協賛金が払っているというが、33町内会と57町内会にどういう違いがあるのか。

【杉本委員】

57町内会で納めているお金は、例えば、本町でイベントをやるが、そういうもののお金とか設備だとかを負担している。

【澁市会長】

33を含む57なのか。

【杉本委員】

33町内会は両方とも払っている。

【富田委員】

上越まつりで払って、奉賛会で払って、祭典委員会で払って、三つ払っている。各町内会長からクレームが出ている。三つも払って一本化できないのかという話もある。

【澁市会長】

負担額に差があるということか。

【富田委員】

57町内会というのは高田区の町内会と同数である。

【茂原委員】

市からは出ていないのか。

【杉本委員】

直接的には市からは出ていない。市からは上越まつり実行委員会に出ている。何千万円の金が出ている。高田祇園祭と直江津祇園祭には500万円くらいずつで、残りは全部謙信公祭という格好でお金は出ている。高田祇園祭祭典委員会に上越まつり実行委員会から援助金がここに出る。その援助金の中から一部がまた祭典委員会のほうへ回ってくる。

【澁市会長】

市は出資した金を宗教行事に使われるのが困るということか。

【杉本委員】

そういうふうなクッションを置いて、宗教行事と関係ない格好をしている上越まつり委員会にお金を出している。

【澁市会長】

私も地域協議会としては何もできないと思う。しかし、400年も続いた行事が衰退するのをただ見ているだけというのは、何しているのかと思う。直接は関われなくて、このように議論をしてそれを住民にフィードバックしたり、みこしが通る33町内会以外の24町内会は、やはり関心は薄れてしまうので、そこを考えなければならぬと思う。高田全体のお祭りをみんなで祝いましょうと言うのであれば、その辺を考えていただかないといけないと思う。それを考えてくださいと地域協議会からは言えない。

【吉田委員】

みこしには関わっていないかもしれないが、大民謡流しなどには参加している。みこしにもほかの町内の人たちがもう少し自由に参加できるような仕掛けをすればよいのではないか。担ぎたい人はいると思う。

【澁市会長】

杉本委員が指摘されたように地域協議会としての関与することは難しいというこ

とで、話し合いのテーマにする必要はないと思うが、皆さんいかがか。

祇園祭についていろいろ勉強し、歴史についても少しは理解できた。400年の歴史があることが分かったところで終了としてよいか。

(よしの声)

では、テーマとしては取り上げないこととする。

続いて「大雪に対する準備の再確認・点検」に入る。

杉本委員からの提案により、市から町内会長に説明のあった「一斉屋根雪下ろしの実施方法について」という資料を参考として配布した。令和4年度に高田区地域協議会が提出した大雪災害対策に係る意見書への市からの回答とあわせて、本日はまず皆さんと課題等を共有したいと思う。

【村田委員】

豪雪の時に青田川の桜の老木の幹や枝の太い部分が落ちたことがある。状況によっては市の職員の方にも点検や老木に対する安全管理も必要になってくるのと感じて、民生委員の中でも話題に出したこともあった。市からも配慮いただいていると思うが、確認をしてほしい項目の一つにはなるかと思う。

【澁市会長】

雪で腐った枝が落ちてくるのは危ないと思うが、ここで取り上げるということにはならないのではないか。

【杉本委員】

令和4年の時は一斉雪下ろしの開始まで14日だった。これが現在、4日間短くなった。大雪で家がミシミシ鳴っているのを10日間も我慢するということである。これは我慢ならないということで話を出して、それでやっと4日間短くなった。私が町内会長になったばかりの頃は、一斉雪下ろしをやるというと、翌々日に町内会長会議が行われた。その周知期間なんていうのは、2日しかなくて一斉雪下ろしを済ませて、あとは排雪してくれるのを待って、1週間かからないで雪がなくなった。それが今、10日だとか2週間だとかいうのは、どうなっているのかと口酸っぱく言っているのだが、4日間短くなったということで若干良しとするか。要は、この1日目から5日目までのところにいろいろ書いてあるが、例えば、その排雪交通規制計画の作成は、雪が降ってからでなければできないのかという話である。運搬路、雪捨て場の確

保も、今、雪捨て場が今年は上越大橋のほうがだめで、場所が決まっている。わざわざここにそういうことを書く。関係機関と排雪業者との調整ももっと前に、もし大雪になったら頼むという話はできるのではないかと思う。

【澁市会長】

おっしゃることはわかるが、委員全員が一斉雪下ろしの地域に住んでいるわけではないので理解できない。自分で住んでいるなら今おっしゃるような意見をどんどん言えるし、みんなで議論することもできるが、これは関係町内会で議論していただくのが一番よいのではないか。地域協議会で議論しても、わからない人が半分以上いる。

【杉本委員】

私が今話したようなものは、除雪会議が11月末頃にあるが、基本的にその時期に主張するしかない。

【澁市会長】

このくらい雪が降ったらこうしようというシナリオをいくつか用意しておけばいいわけで、例えば、今日から20日くらいまでに70センチ雪が降ることが予測されたら、これはシナリオ2だとか、シナリオ2の場合はどうすればいいかというストーリーを用意しておくべきである。ただ、そういう話は実際に一斉雪下ろしに携わる人でないとわからない。

【富田委員】

一斉雪下ろしの決定は誰がするのか。

【杉本委員】

市役所である。

【富田委員】

屋根の雪が何センチ以上になったらなど基準があるのか。

【杉本委員】

三か所くらいあると思う。そこの重量が何キロを超えて積雪量が何センチ以上になったら、一斉雪下ろしをやるという基準がある。

【富田委員】

意外にそういうことで時間を費やすのではないか。

【杉本委員】

時間がかかるわけではない。市の職員が頻繁に計測器を見に行っているのはありがたい。

【澁市会長】

素人を見て、シナリオを想定すればいいだけではないか。それを市はなぜやらないのか。地域協議会で議論しても仕方がない話なので、それはやはり関係町内会長が集まって、例えば、1メートル積もった場合とか、1メートル50積もった場合とか、50センチだけの場合と対応の仕方が違ってくるのではないか。

【杉本委員】

50センチとか70センチとかは関係ない。

【澁市会長】

1メートル40センチ積もった場合とか、何日間で積もった場合にどうするかというシナリオを作っておけばよいのではないか。前の5日間なんてなくてよいのではないか。シナリオがあれば判断すればよいのだからそこで判断して、じゃあそれをやりましょうというふうにすればよいのではないか。

【吉田委員】

1日目から5日目までの話は、雪が降る前に決定しておかなくてはならない。一斉雪下ろしになると苦労する。雪下ろしの開始の時の人集めが、若い時は自分で下ろしていたからよかったが、人に頼むとなると集中する。名簿があってもなかなか連絡が取れなかったりすると、民生委員に何とかしてという話も聞いたことがある。昔は土日にかけて時間が2、3日あったのが短くなって、時間が経っているのに下ろして今度はまだ時間があるのにもうトラックが来ていて、早く下ろせと言われてたりしたこともある。何とかなるのはこの前半で、途中で雨が降ってどんどん減ってきたという時もあった。雪下ろしの時間が少なくなった。雪下ろしに来てくれる人たちも高齢化でやりにくい現場は行きたがらない。

【澁市会長】

ここで、決定して市に意見というわけにいかないが、感想としてこれはかなり見直す余地がある。なぜ10日間もいるのか。いろいろシナリオを作っておけばよいのではないか。

【杉本委員】

町内会長会議をやった後の周知期間、自分の町内を回って一斉雪下ろしだと一声かければよい話だから、4日も5日もかけて大雪になって一斉雪下ろしをやるという話になれば、みんな身構えているわけだから。勤めのある人は休みの算段をする。一斉雪下ろしをやる時は、そもそも車が出ない。余計なことを考えすぎているのではないか。

【澁市会長】

これは見直す必要があるのではないか。そういう意見書を出しましょうか。これはもう少し前半を短縮する余地があるのではないか。私の意見に反対の方、意見あったら教えてほしい。

【杉本委員】

そういう意見書なら出せるかもしれない。

【澁市会長】

余地があると思う。この10日間というのは、前の5日間が長すぎるのではないかと。いろいろな準備のステップを考えておけば、もう少しこれは短くなるのではないか。

【富田委員】

14日間が10日間と4日間短縮された。4日間の短縮とはどういうところを打ち出したのか。

【杉本委員】

前の資料をもっていないのでわからない。

この期間というのは、車は入れないし、救急車は入れないし、郵便もこないし、宅配の車も入れない。

【澁市会長】

見直しの基本的な考え方は、雪下ろし決定から雪下ろし開始までの日数は、10日間を基本とする。その間、道路に積もった雪は動かさない。車が入れないのではないか。

【杉本委員】

基本的にそうだが、消雪パイプが出ているところは、1車線分くらいは空く。

【澁市会長】

長すぎるのではないかということで、意見書をまとめるべきだと思う。

【吉田委員】

完全に入れたいのは、雪下ろしが開始してからである。

【杉本委員】

ここから排雪の問題である。

【富田委員】

会長が言われた5日間、あらかじめ雪捨て場の確保は決まっている。それから、計画の作成もできる。関係機関の調整は時間がかかるか。

【澁市会長】

もう少し短くできないかという意見書を出してもよいのではないかと。皆さん、次回2月16日までに意見があったら事務局に送ってください。正副会長と事務局でそれを見ながら、もう少し短くすべきではないかというような趣旨で意見書を出したいと思う。いろいろ議論した結果、無理だと言ったら出さない。

【石黒係長】

意見書を出すにしても、担当課でどういうことをしているか確認をしないで、いきなり意見書を出すのか。

【澁市会長】

それも、今度の事前協議の時にお聞きしたいと思う。

【石黒係長】

1月、2月は、担当課はまさにピークということで、タイミングとしてはずらしたほうがよいのではないかと。

【澁市会長】

では、1月、2月で質問をまとめて担当課に提出し、その回答や説明を協議会の場でお願ひする段取りでどうか。

【石黒係長】

担当課には3月に来てもらうということか。

【澁市会長】

そうである。我々ももっと効率的にということを考えるべきだと思う。そういう段

取りでよいか。質問があったら、次の協議会でこういう質問があるということを列挙したいと思うので、事務局に連絡していただきたい。雪国の生活環境を改善するということでよろしくお願ひしたい。

【吉田委員】

雪関係で、1週間か10日前に雪が降った際、地盤沈下するから井戸水を出すなどいうので自宅の消雪パイプを出すのをやめた。何のために消雪パイプあるのかと思う。今回の夏の渇水のために使って水が減ったのか、ここ近年見ていると消雪パイプを作るが地盤沈下するからと抑制される。もっと違ったことにお金を使ってもいいのではないかなと思う時がある。

【澁市会長】

それも3月にお聞きしたい。昔は表層の20メートルくらいの地下水を使っていたが、最近、市は200メートルくらいの深層地下水、この間、寺町3丁目の上越高校の敷地内で掘っていたが200メートルと書いてあった。深層地下水は枯れないのか。道路を見ていると雪が全然降っていないのに水が出ている。市民に地下水をもっと節約してくださいと言うのであれば、市もちゃんとしろと言いたくなる。その辺の疑問があったら次回整理したい。

【澁市会長】

ただいまの意見を整理し、進め方を事務局と検討したいと思う。

以上で、次第2 自主的な審議（1）今後の活動についてを終了する。

中高生の学習場所の件で、オーレンプラザのフリースペースに今日も行って見たが、照明が暗いことが非常に気になる。勉強している生徒に暗くないか聞いてみたら、「暗いです」という答えだった。施設の人に言わないのか聞いたら、「なかなか」というので、担当課に伝えてほしい。

【町委員】

ここでそういう議論をした時に、少しは改善したという話を聞いた気がするが、明るさは変わっていないのか。

【澁市会長】

知らない。

【町委員】

明るくなつたと聞いた気がしたが。

【飯塚委員】

あそこが暗すぎるという話が出て、ここで誰かに聞いた。

【渡部委員】

私の記憶では、施設の方が高校生とか何人かに聞いて、困っているという意見が出なかったと言われた。継続してまた聞いてみてくださいと私がお願いした時に、了解したという回答だったが、果たして実行されているのか。恐らく放っておかれているのだろうが、公民館の機能としてそこをもっと見つめていていただきたい。

【澁市会長】

公民館としても使っている人が不自由するような状態はよくない。

【渡部委員】

貸しスペースとしての公民館というところだけはすごくクローズアップされているし、たくさんの市民の方が使って地域に貢献しているというのはわかるが、そうではなくて子どもたちはお金を払うとかではなくて、もともとの公民館は無料なはずである。だからそこにもっと重きを置いて、やはり若い子たちが楽しかった思い出かになってほしい。どうでもいいと思われているような感じがしなくもない。公民館の機能としてもっと子どもたちを大事にしてもらいたい。

【澁市会長】

照明の話も公民館としては、使われているわけだから改善してくださいと。今度来て改善されていなかったら意見書を出しましょう。私はそれを提案する。

【渡部委員】

寒いですからね。

【吉田委員】

寒いのは何とも言えない。元々あそこは勉強する場所として作っていない。

【澁市会長】

それはわかる。

ほかに意見を求めるがなし。

【澁市会長】

次第3 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

第10回地域協議会：2月16日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

第11回地域協議会：3月16日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

【澁市会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・全体を通して質問等を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。